

▶ 知っています？市の森林皆伐で市民の財産が失っていること。

白旗山都市環境林ニュース

2024年12月5日(木) NO.8 発行:札幌の自然を守る会 代表 梶田清尚 HP:<https://midori.kei1.org>

秋元市長が森林破壊 市民の憩の森・白旗山都市環境林が消える



酷い！地元テレビ局が特番組む

札幌市の秋元市長は、自然環境にあまり興味がないようです。市が保有する都市環境林の白旗山を何のためらいもなく皆伐という方法で森林破壊を進めています。さすがにこの山肌を丸裸にし生態系全滅や土壤のダメージが起こっている事実を、地元テレビのHBC局が番組で特集しています。

2024年10月25日に放送させた内容から白旗山の現状を見てみましょう。いかに皆伐によって森林が徹底的に破壊されているかが、よくわかります。わたしたちは自然といかに共生するか、散策する際にも環境を大事に生態系に損傷を与えないで市民の貴重な財産を多くの人が享受することを願っていましたが、行政トップの秋元市長自身が自然環境を守るべきなのにやったことは、その真逆なことでした。

いま白旗山都市環境林は、美しい森林が無残な姿になり、破壊そのものの現場(写真)となっています。

テレビ局が取り上げた要点

番組はじめから、白旗山の森が荒らされています、いったい誰が？自然観察や散策が楽しめる市民の憩いの場、それが無残な姿に、誰が何のために。いまこの森が危機に瀕しています。いったい何が起こっているのか。現場は痛々しいほどの木々が散乱している。緑豊かな森が一面の荒野と変わってしまった。6年前の森と比較すると森が喪失していることが一目瞭然です。と、始まりました。

■野鳥が絶滅か—野鳥の会が絶句

この辺ではクマゲラもよく飛び回っていた。あとエゾライチョウが脇道から親子連れで出てきていたが、全滅だ。この森には国の天然記念物のクマゲラが営巣し、北海道の準絶滅危惧種のエゾライチョウの親子が遊んでいた場所だ。伐採された木々には多くの鳥、アカハラ、コルリ、エゾフクロウ、キビタキなどが育んでいたという。

■土砂崩れの危険性

さらに調査を進めると至る所で森が伐採されていた。さらに多くの至る所で伐採が行われていた。木々が伐採されたことで土砂崩れの危険性が高まった。誰が、何のために森を破壊しているのか。

■森林破壊者の正体は、札幌市だ

その答えはわかった。「あれは札幌市が行っている皆伐という作業です」との現場の声。皆伐とは、森林などの特定区域の木々を全部切り倒す、一度にすべてを伐採する方法で、札幌市の事業だという。これまでに12カ所、30万平方メートルの森が皆伐されていた。

■なぜ森林破壊なのか、札幌市に問う

白旗山を管理する札幌市を(テレビ局が)直撃した。「なぜ木が切り倒されたのだ」と、尋ねた。これに札幌市は、「白旗山自体が1913年にカラマツの苗木を植林して皆伐するという作業を進めるところから始まっている。50年後を目途に再び皆伐する事業を進める予定だ」という。さらに「白旗山は元々林業のために作られた山で50年前から伐採を前提に育てられていた森だ。白旗山は皆伐を目的に作られた山、皆伐を前提で木を育ててきた。1970年代に国産木材の需要が低下したため一時的に伐採を休止していた」と説明は続く。

■ゼロカーボンシティ宣言のため森林伐採?

さらに皆伐した理由を「2020年に札幌市がゼロカーボンシティ宣言とか地域材の需要の高まりとか、より一層森林の整備を進めていくことを踏まえ、木材を生産するゾーニングに変更した。これまで木を2023年度が約2500万円、2024年度は約3100万円で売却した」と札幌市は本格的な林業へ再開したという。

その再開に当たっては、「2023年に森林整備計画を改定する際、市民から意見聴取する期間を設けた

札幌市の森林「ゼロカーボン宣言」とは

◆温室効果ガス(CO₂)の排出ゼロを目指す政策で札幌市は2020年ゼロカーボンシティの実現(逆にCO₂増加)や地域材の需要の高まり等を背景に2023年に森林整備計画を改定して本格的な林業の再開(森林破壊)へと舵を切った。◆その結果、札幌市の木材収入が2023年度約2592万円、2024年度約3169万円、この2年間で札幌市は約5700万円の収入を得た。◆また国から森林環境譲与税(年額1,000円徴収住民税均等割1人)があるので森林整備(森林破壊)を進める。

が特段ご意見等がなかった」それで皆伐を実行したと説明する。



秋元市長の森林皆伐という破壊論

市民団体の森林破壊はやめるべきの声

■CO₂の吸収・排出量の計算していない

一方、皆伐に反対する市民団体は、「ゼロカーボンにも疑問がある」という。市長は真逆なことをやっており、むしろCO₂の排出が多くなって、ゼロカーボンにならないと計算でも出ている。白旗山の皆伐はCO₂の吸収量より排出量が多いことになり、かえってCO₂を増やすことになる。このことを札幌市に聞けば、驚くことに「計算していない」という。それでも説明では、「個別の計算はしていないが、都心でも炭素を固定しつつ、山では新たな木々を植えていくことで、炭素を吸収できるという理論に基づいてやっている」と科学的根拠もなくただ当てずっぽうであることがわかった。

■森林皆伐に必要な環境調査は未実施

さらに札幌市のいい加減さはここでも露呈した。森林破壊による最も深刻なことは、希少生物が生きていくために必要な森を伐採したことです。その影響を知るために環境調査は特に行っていないという。

「極力環境に負荷のかからない施業の仕方で取り組んでいる」と説明するがそれは口だけで何ら根拠がない。ここで明確なのは、貴重な動物が暮らしていた森を札幌市は、皆伐に当たって調査もせずに無残にも森林破壊をしていたのです。

■札幌市、皆伐強行・森林破壊は継続する

札幌市は皆伐という森林破壊を、(皆伐は)森林機能を維持していく重要な手法の一つとしてこれからも皆伐を行っていくと開き直る。つまり森林を破壊しつづけるということ。「皆伐には市民の皆さんのが理解が欠かせないので」というが、到底理解できるものでない。このような考え方で森林破壊を容認するわけにはいきません。札幌市長に破壊の中止を求める。